

実習先	玉川学園子どもクラブ ころころ児童館
目的・テーマ	プロジェクト活動を通して問題解決能力の育成を目指すPBL(Project Based Learning)のアクティブ・ラーニング
目的・概要	<p>受講学生・実習先の問題意識・背景・目的等</p> <p>「社会教育課題研究」でさまざまな社会的課題について調査することと、近隣の社会教育関連施設を訪問することを通して、課題意識を醸成。毎年、自分たちにできることを考察し、学生が主体的に考えた地域活動の企画し実施する。</p> <p>概要</p> <p>様々な施設訪問の結果、児童館での実習が定例化。児童館のことを学生はあまりよく知らない実態があるため、春学期は「社会教育課題研究」で課題意識を醸成するとともに、サービスマーケティングのように児童館へボランティアに行く。週1回、講義の合間にボランティアに行き、その記録と省察をE-learning System(BB)で共有し、子どもの実態、児童館の仕事、企画の立て方などを学びあう。そのうえで、企画の実施に向けて、PBLを行い、最後は、参加したボランティアとともにラウンドテーブル形式で振り返り会を行う。</p>
分野	教育・福祉・子育て
形態・期間・人数	長期継続、通年(毎週、実習と省察を繰り返す)、協働で省察ができるように全員が同じ所へ。
方法	講義・見学・観察・調査・参加・体験・ボランティア・AL・SL・PBL・AL
プログラム	<p>(事前)</p> <p>課題を教員が設定するのではなく、学生の課題意識を醸成することから始め、社会に開かれた対話的・協働的な学び合いから始める。</p> <p>「社会教育課題研究」で、毎回、学生、社会的課題だと思ふ事の調査結果を発表することにより、社会には様々な課題があることの課題認識の醸成。</p> <p>ある程度、社会的課題が出てきたところで、システム思考を用いて、そのつながりを考え、自らのメンタルモデルをとらえ直す。</p> <p>「社会教育課題研究」では、上記の調査研究とともに、20～30分は「社会教育実習」の企画を考える。また、この間に、しばしば地域のさまざまな社会教育関連施設を訪れて、実態調査も行っている。</p> <p>(事中)</p> <p>達成感を得る主体的・実践的な取組。</p> <p>春学期は、サービスマーケティングのように、毎週1回、児童館へボランティアに行く。子どもがいる時間帯は、子どもと遊ぶこともあるが、子どもが居ない間の児童館の仕事なども学ぶ。児童館での学びは、E-learning Systemで共有し、学びあう。</p> <p>「社会教育課題研究」の時間のみでは企画の時間が足りないので、学生は空き時間に集まって、企画を練る。企画がある程度形になってきたら、児童館にボランティアに行く際に、職員の方に相談をし、企画を練り上げていく。</p> <p>企画の実施。毎年、学生が主体的に考えているので、何をするかは、毎年違う。</p> <p>(事後)</p> <p>ラウンドテーブルや実践記録で省察をし、1年間の学びを実習報告書にまとめる。</p> <p>ラウンドテーブルには、ボランティアに参加した人も呼び、協働的・対話的に実習を振り返る。</p>
方法論上の特記事項	事前指導—実習—事後指導という形をとらずに、実習と省察を繰り返す学びにしている。春学期の「社会教育課題研究」と秋学期の「社会教育実習」を連動させて、4単位の学びにしている。実習報告書をまとめるとともに、HPに簡単な報告も載せ、次年度の実習生への告知や次週先との連携のツールにする。

成果	(学生)	(表、グラフ、数値など定量的成果)
	(受入先)	
	(その他、地域住民、連携先等)	

社会に開かれた実践的な学びになる。
「私も誰かのために何か行動をしたい」(アクション)、「違いこそが良い考え方を多く取り入れることにつながる」(チームワーク)、「振り返りがいかに大切か痛感している」(シンキング)の社会人基礎力が培われている。
実習先に就職をし、実習生の受け入れをしてくれている。

・毎年、1企画につき20人前後の児童生徒が参加。

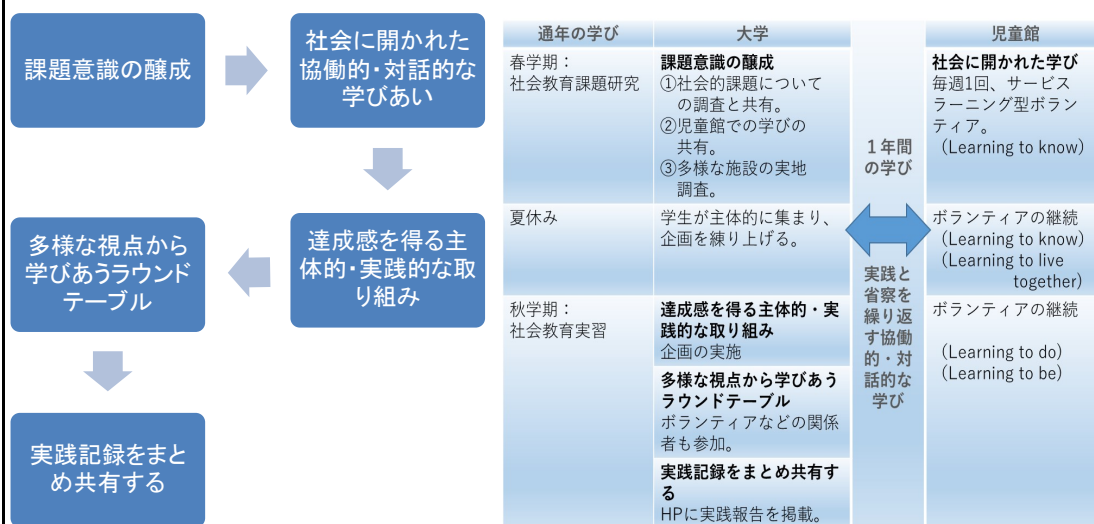
大学との連携強化。
大学の施設を利用することにより、できることが増える。
学生を指導するのは大変であるが、ボランティアの確保にもつながる。
多様な助成金申請などの一助になる。

・実習報告書は関係者にしか配布していないが、実習概要報告は大学のHPで行っており、アクセス数が、多いとのこと。

・毎年同じ所で実習をしているので、教員としては連携がしやすい。1年目はメールを使わず、なるべく訪れるようにしていたが、今は、メールで済むことが多い。

(その他、地域住民、連携先等)
大学の施設を利用することにより、子ども達に多様な経験をさせてあげることができる。
大学生との斜めの関係を築ける。
子ども達にとっては地域に知り合いが増える。私学なので、あまり地域貢献をしていないが、大学、大学生、大学教員などが身近な存在になる。

実施イメージ



資料・写真等



広い体育館で大学生と遊べる。



ラウンドテーブルでの振り返り

実施主体
関係情報

ころころ児童館 <http://www.korokorojidoukan.com/>